ACTIVITY 01

地区防災計画づくり－「地区（地域）を知る」から始める－

課題を見つけ、計画の土台をつくった段階

地区（地域）のことを知ることが、「いざ！」の備えにつながる！

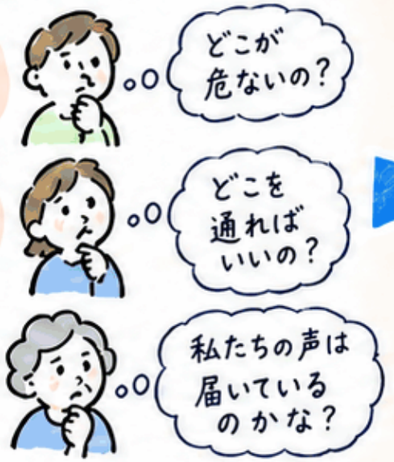




1 見えてきた課題

自分たちの目で「地区（地域）を知る」

- 地区（地域）の危険箇所が共有されていない
- 避難ルートや水害リスクが見えにくい
- 住民の声が計画に入りにくい





2 どう解決したか

地区（地域）を知るために、調査から計画への流れをつくりみんなで取り組んだ。

1 調査

過去の水害を見える化

- 過去の被害、橋・河川、危険箇所を把握する

2 現地確認



ドローンで地形・橋・河川を確認

- 高いところ・低いところを把握
- 危険箇所をチェック

3 聞き取り



住民・関係機関とワークショップ

- 住民の体験や気づきを聞く
- 地区（地域）に合った課題を整理

4 計画へ反映

- 得た情報を地図・計画に整理
- 地区防災計画へ反映する



3 わかったこと

調査や話し合いを通して、大切な気づきが得られた。

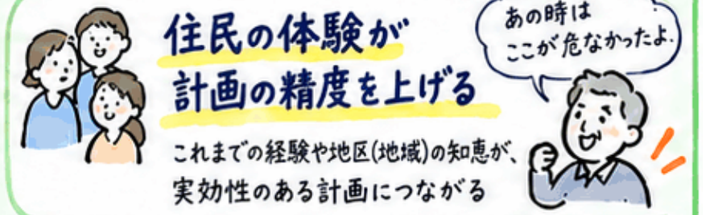
地図だけでなく現場確認が重要

実際に見て、歩いて、確認することで見えてくる危険がある



住民の体験が計画の精度を上げる

これまでの経験や地区（地域）の知恵が、実効性のある計画につながる



「知ること」が備えの第一歩

地区（地域）のことを知ることで、自分たちで考え、行動する力が生まれる



地区（地域）を知ることが、実効性ある地区（地域）防災計画につながる



ACTIVITY 02

第1回 田中地区防災キャンプ ― 計画を「行動」に変える

つくった計画を実践で確かめ、改善点を見つけた段階



1 見えてきた課題

計画書

計画が紙で終わる
おそれ





実際の避難時間・
安全性が分からない





役割分担や支援方法
の経験が不足



だからこそ、
実際にやってみる!

2 どう解決したか

各団体が連携し、実際の避難ルート・避難時間・
支援方法を体験型で検証しました。

1 実際の避難ルートを歩く



実際のルートで
確かめる!

2 炊き出し・サバイバル飯を体験



非常時の
食を体験!

3 防災ワークショップで連携を確認



みんなで考え
連携を確認!

4 検証結果を次の計画へ

検証レポート

気づいたことを
次の計画に
活かす!

当日の流れ

- 9:15 集合・受付
- 10:00 避難開始(ルートを歩く)
- 11:00 避難所到着 炊き出し
- 12:30 体験・WS

約3km・
約1時間で避難!

3 わかったこと



高齢者・要支援者の視点が重要

歩行速度や支援の方法など、
当事者の視点で考えることが大切。



避難後の生活支援まで考える必要がある

炊き出しや居場所づくりなど、
避難後の暮らしも見据えた準備が必要。



実践で見えた課題を計画へ戻すことが大切

体験から得た気づきを整理し、
次の計画に反映していくことが重要。

計画は、実際に動いてみることで「使える計画」になる



ACTIVITY 03

地区(地域)へ広げる防災活動 –「日常・福祉・教育」とつなぐ–

防災を単発で終わらせず、地区(地域)の日常へ広げていった段階

地区(地域)でつながると、いざという時に強い!





みんなでつくる
安心して暮らせるまち

1 見えてきた課題



防災に参加する人が限られる

いつも同じ人だけ…



単発イベントで終わりやすい

やって終わりになってしまう…



家庭や地区(地域)全体へ広がりにくい

もっと多くの家庭や地区(地域)に広げたい…



どうしたらもっと多くの人に伝えられるだろう?

2 どう解決したか

地区(地域)のそれぞれの場で防災を取り入れてみた!

01 地区(地域)行事×防災



恒例行事で炊き出し訓練

☑ 人が集まる場に防災をのせる



地区(地域)のイベントだがら気軽に参加できた!

02 福祉×防災



社会福祉協議会の地区(地域)防災イベント

☑ 体験の場を日常の中につくる



普段の暮らしにも役立つね!

03 教育×防災



小学校で炊き出し体験

☑ 体験の場を日常の中につくる



自分たちで作ると楽しい!
家でもやってみたい!

3 わかったこと



防災が日常に入りやすくなる

いつもの暮らしの中で取り組める!



子どもや福祉を通じて家庭へ広がる

家庭でも防災を意識するようになった!



つながりが共助の力を育てる

地区(地域)のつながりがいざという時の力になる!

目指す姿

防災を「特別な訓練」から「地区(地域)の習慣」へ



つながる地区(地域)でもっと安心な未来を!



ACTIVITY 04

防災士として地区(地域)で動くため課題と実践 ー「信頼」と「つながり」を力に変えるー

資格だけでなく、地区(地域)との関係づくりが大切！



地区(地域)に入り、顔の見える関係をつくりながら活動を広げた段階

1 見えてきた課題



防災士の資格だけでは地区(地域)でいきなり動けない



まずは信頼してもらうことが必要



地区(地域)の会議や地区(地域)の集まりに出て、顔を覚えてもらう必要がある



誰がどんな役割かを知ることも大切



地区(地域)を歩いて、危険箇所・人の流れ・地区(地域)の実情を知る必要がある



実際に歩くと見えることがある



防災だけでは人が集まりにくく、日常の活動との結びつきが大切

普段の交流の中で防災を伝える工夫が必要



だがらこそ、地区(地域)に入り、継続して関わる！

2 どう乗り越えたか

1 24年間の消防団活動

地区(地域)防災の現場経験を積み、顔の見える関係を築いてきた



2 青年会に参加・会長を経験

地区(地域)の中心メンバーとつながり、地区(地域)活性化の役割を担った



3 地区(地域)行事を通じた関係づくり

盆踊り、さつまいも掘り、じゃがいも掘り、地区(地域)祭り参加などを通じて、日常の交流の中で信頼を重ねた









4 会議参加・まち歩き・声かけ

地区(地域)の会議に出て地区(地域)課題を知り、歩いて見て、住民の声を聞いて活動につなげた



3 まとめ



信頼は少しずつ築いていく

継続して関わり、顔を合わせることが大切



地区(地域)活動の経験が、防災士としての実践力になる

消防団や青年会の経験が、地区(地域)で動く土台になった



防災は日常のつながりの中で広がる

行事・会議・交流の積み重ねが、いざという時の助け合いにつながる



これからも「地区(地域)を知る・参加する・つなぐ」

防災を特別なものにせず、地区(地域)の日常の中で育てていく



日頃のつながりが、いざという時の力になる！

日頃のつながりと地区(地域)での実践が、防災士として動ける力になる